
スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中『メイジエラタウン編』

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中『メイジエラタウン編』

【Nコード】

N2399Z

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

まさかのついに、逃走中が第六弾を迎えた……。舞台は明治時代の街『メイジエラタウン』。22人の逃走者が、80分の中で逃げ回る！果たして、逃げ切る者は、誰だ！？

逃走者紹介（前書き）

ついに、第六弾を迎えた・・・。

まずは、逃走者紹介・・・。

逃走者紹介

ローゼンメイデン(2)

翠星石

所謂ツンデレな性格で、清楚で淑やかな容姿に合わずかなりの毒舌家。

更に天邪鬼で計算高く高飛車な為、ジユンから「性悪人形」と呼ばれている。

だが実は臆病かつ泣き虫で人見知りな為、すぐ誰かの後ろに隠れてしまう。

ミッシヨンには内容次第で行く。足は遅い。

蒼星石

生真面目で寡黙。双子の翠星石とはいつも一緒だったが、自分自身をちゃんと持ち

「半身」ではなく「一人」でいられる彼女にはコンプレックスを持っている模様。

翠星石と二人きりの時にしか見せない表情もあったものの、その想いの深さの分だけ

羨みや憎しみも強く、翠星石と敵対した時は戦えることが嬉しいと言った。

ミッシヨンには積極的。足はかなり速い。

プリキュアシリーズ(5)

北条響

奔放な面が目立ち、明るく少しおつちよこちよいな性格だが、誰よりも負けず嫌い。曲がったことが大嫌いで正義感も人一倍強い。一方、寂しがり屋で泣き虫なところもある。ミッシオンには積極的。足は速い。

南野奏

しっかりとしていて、先生や友人からも頼りにされているが、実際には皆が知らないところで人一倍頑張る努力家であり、それを知っているのは響をはじめとした近しい人物のみである。ミッシオンには時々行く。足は遅い。

月影ゆり

聡明かつ物静かな性格。非常に大人びており、ミステリアスな雰囲気
気を醸し出している。ももかの数少ない友達で、モデルの仕事で授業を欠席しがちなももかのためにノートの写しを渡したり、一緒に弁当を食べたりと、色々と気遣いを見せる。ミッシオンには積極的。足は遅い。

山吹祈里

おっとりとした性格でのんびり屋だが、自分に自信が持てず、少々引つ込み思案な所がある。そんな内向的な自分を変えようと、ラブ達の結成したダンスユニットに参加することを決意した。ミッシオンには積極的。足は遅い。

東せつな

生真面目で優しく、健気で聡明な性格だが、物事を伝えるのは不器用。

イースとしての過去には一応の決別を果たしたものの、裏切りや悪行に対する罪悪感が少なからず残っている。ミッションには積極的。足は速い。

大乱闘スマッシュブラザーズ（9）

マリオ

ラテン系らしく陽気で活発な雰囲気醸し出すようになっており、陽気、友好的、正義感が強い、身体能力が高い、有名人、オールラウンダーといったヒーローキャラクターとしての普遍的なイメージが少なからず出されている。ミッションにはあまり行かない。足は速い。

ルイージ

緑の人気者。双子の弟。兄より背が高く、痩せ型。兄に比べて地味で損な役割を与えられることが多い。マリオとは競ったりもするが兄弟仲は良い。

「永遠の二番手」、「脇役」、「サブキャラ」、「緑のヒゲ」などと呼ばれているが

『ルイージマンション』では主役を務めている。ミッションには時々行く。足は速い。

ドンキーコング

多少短気で強引なところがあるが、それは単に幼稚な面があるだけで本人は悪気はない。ドジで頼りないところもあるため、

よくクランキーコングからは説教されており、クランキーを怒らせてTNTバレル

(要は爆弾)を投げつけられるなど、初期からこのような扱いだった。

ミッションには時々行く。足は結構速い。

ワリオ

自尊心や自己主張が激しく毒舌で、行動および発言は極めて下品であり、

人前で鼻くそをほじったり、尻をポリポリかいたり、オナラをするのは当たり前。

ミッションには絶対に行かない。足は遅い。

リンク

緑の衣を身につけたゼルダシリーズの主人公、神に選ばれし少年

(勇者)である。「勇気のトライフォース」の所持者、

またはそれには選ばれる運命にあるハイリア人。

ミッションには積極的。足は普通。

ピット

正義感が強くパルテナへの忠誠心も篤いが、年齢相応のやんちゃで自信家な性格となっている。また、パルテナへは忠実な一方で、

彼女が時折見せるいい加減な面には着いて行けず、
頭を抱えている様子も垣間見せる。
ミッションには積極的。足は速い。

カービィ

自由気ままでのんびり屋。
風の吹くまま気の向くままに行動する。天真爛漫で純粹無垢だが、
自分で決めたことは絶対に変えない部分がある。
ミッションにはあまり行かない。足は結構遅い。

オリマー

ホコタテ星という惑星の運送会社「ホコタテ運送」に宇宙船の
ドライバーとして勤務する男性。小型貨物から宇宙資源まで
さまざまな物資の運搬を頼まれ、宇宙航海士としては確かな腕を持
つ。

ミッションには時々行く。足は結構遅い。

レッド

マサラタウンに住む少年。

ゼニガメ、フシギソウ、リザードンが手持ち。前回は自分の確保の
せいで

全滅した為、絶対に逃げ切りを狙いたいと思っている。
ミッションには時々行く。足は結構遅い。

魔法少女リリカルなのはStrikerS(4)

スバル・ナカジマ

前向きで能天気な人当たりのいいムードメーカーだが、意外と内気で気が弱いところもある。はやてと同じく「おっぱいマニア」らしく、寝惚けているティアナの胸を揉んだことがある。だが、一度決めたことは最後までやり通す一本気な面も持っている。ミッシヨンには積極的。足は速い。

ティアナ・ランスター

強気でプライドの高い性格だが、ドジを連発するスバルに憤りながらも

世話を焼くような面倒見のいい一面がある。天涯孤独の身の上であることから、優しい家族に支えられているスバルやなのはを羨ましがっている節がある。

ミッシヨンにはあまり行かない。足はかなり速い。

エリオ・モンディアル

実直で克己心の強い性格をしており人当たりも良いが、その性格が災いしてか女性陣にからかわれることが多い。また、少々羞恥心に欠けるキャラの過激なスキンシップに困惑することもある。ミッシヨンには積極的。足は速い。

キャラ・ル・ルシエ

おっとり天然気味の、可愛らしい性格。その経歴上同世代の友人を

持ったことがなく、「パートナー」という存在に強い憧れを持っている。

また、その育ちのせいかわりに羞恥心に欠ける部分がある。ミッションには内容次第で行く。足は遅い。

ぶよぶよ20th(2)

アルル・ナジャ

魔導師の卵の女の子。天真爛漫、明朗活発、とにかく元気で、明るくさばさばした性格。純粹無垢だったり

シビアで戦闘慣れしていたりする。遺跡探索が趣味。

ミッションには積極的。足はかなり速い。

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。

どんぐりガエルを生き別れの兄だと言い張ったり、

おにおんを弟にしようとしたりと、奇妙な言動が多い。

ミッションには内容次第で行く。足は遅い。

逃走者紹介（後書き）

次回、恐怖のオープニングゲーム・・・。

オープニングゲーム？（前書き）

ついに、緊迫の、オープニングゲームが、始まる・・・！！

オープニングゲーム？

ここは、多くの住民で賑わう明治時代の街、『メイジエラタウン』
・・・。

そう、ここで、緊迫のオープニングゲームが開かれる・・・！！

とある場所に集められた22人・・・。

果たして、彼等はどんなゲームに挑むのか・・・！？

22人の目の前には、4体のハンターボックスと22本の鎖・・・。

逃走者のスタート地点はハンターボックスの目の前。

そのボックスの中にはハンターがおり 扉は塞がれている。

ボックスの前には逃走者と同じ数の鎖を束ねた装置。

逃走者は 1人ずつ順番にハンターの目の前へ行き、

装置から鎖を引き抜かなければならない。

装置の鎖のうち 1本だけがカンヌキを落とし扉を開放するハズレの鎖。

その鎖を引くとハンターが解放たれ 目の前にいた逃走者たちは
追いかけられる。

全員

「せーのー!!」

全員が一斉にくじを引いた……。

レッド

「良かった……最後、22番だけ……!!」

アルル

「つてえっ!?!1番!?!」

蒼星石

「15番……中途半端な数字ですね……」

尚、鎖を引く順番は、くじ引きで決められる。全ては運任せだ……。

1番目は、アルル・ナジャ……。

アルル

「うわあ、最初からボク……!?!」

魔道士の卵、アルル・ナジャが鎖の前に立つ……。

レッド

「何色引くんだ?頼むから絶対出すなよ!?!」

エリオ

「気を引き締めて下さい……!!」

アルル

「大丈夫だって……じゃあ青で行くよ!!」

セーフか……？ ハンター放出か……？

アルル

「えいっ!!」 ジャラッ

シーン……。

アルル・ナジャ クリア

アルル

「もうっ……しんどいよ!!後は頑張ってね……!!」

クリアした者は、離れた位置から、スタート出来る……!!

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

リンク

「どりゃあ〜!!」 ジャラッ

シーン・・・。

リンク クリア

リンク

「エメラルドで良かったわ・・・」

3番目は、南野奏・・・。

奏

「とうとうこっちまで回って来たか・・・」

キュアリズム、鎖の前に立つ・・・。

ピット

「奏、何色引くの？」

カービィ

「こっちまで多分回って来るかも・・・」

奏

「どうしよう、困ったな・・・とりあえず赤色で」

ルイージ

「赤色・・・大分良さそうな感じがするけど」

スバル

「でも、油断しては行けないよ・・・!!」

奏

「とっ、兎に角、引くよ!!」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

奏

「つりゃあ〜!!」 ジャラッ

シーン・・・。

南野奏 クリア

奏

「後は頑張ってね……!!」

ゆり

「結構出るのは後の方かしら……?」

ピット

「うわあ、結構危険になって来たな……!!」

4番目は、ピット……。

ピット

「僕の番まで回って来たか……まあ仕方ないよね」

パルテナの親衛隊長、鎖の前に立つ……。

マリオ

「ピット、何色だ?」

ピット

「えっと……ここは単純に白で」

カービィ

「白か……結構ヤバそうな色だね……!!」

オリマー

「ここはどっしりますか・・・!?!」

キャロ

「とりあえず、出るかもしれないから逃げる準備を・・・!?!」

ピット

「・・・引くよ!?!」

クリアか・・・? ハンター放出か・・・?

ピット

「うおりゃ〜!?!」 ジャラッ

シーン・・・。

ピット クリア

ピット

「あゝ、皆頑張ってます!?!」

次に、5人目・ドンキーコングが茶色を引いてクリア。

6人目・アミティが朱色を引いてクリア。

7人目・オリマーが黄土色を引いてクリア。

8人目・北条響が黄緑色を引いてクリア。

9人目・エリオ・モンディアルが深緑色を引いてクリア。

10人目・月影ゆりが紫色を引いてクリア。

11人目・東せつなが肌色を引いてクリア。

12人目・キャロ・ル・ルシエが青紫色を引いてクリア。

レッド

「後10人か・・・頼むから誰もハズレ引かないでくれ・・・!!」

スバル

「まだ出ないの、ハンター・・・!？」

マリオ

「俺に回って来るなよ・・・!!」

祈里

「こりゃ、誰でも緊張しちゃうよ・・・!!」

ルイーダ

「僕はまだなのかな？・・・？」

ワリオ

「俺様は20番だからな・・・絶対に回って来ないと思うけどな・・・！！！」

カービィ

「ええ〜！？誰もハズレ引いてないんだ・・・」

ティアナ

「あたし、ずっとここにいたくないんだけど・・・！！！」

翠星石

「まだですの・・・！？？」

蒼星石

「目茶目茶緊張しますって、こりゃ・・・！！！」

オープニングゲーム？（後書き）

まだまだ、緊迫の、オープニングゲームは、終わらない・・・。

オープニングゲーム？（前書き）

オープニングゲームは、まだ、終わらない・・・。

オープニングゲーム？

まだ鎖を引いていない者は、10人……。

果たして、誰もハズレの鎖を引かずに犠牲者を出さずにクリア出来るのか……!？

13番目は、ティアナ・ランスター……。

ティアナ

「とつとつあたしにまで回って来たか……緊張するな」

機動六課の一員、ティアナ・ランスターが鎖の前に立つ……。

カービィ

「何色何色？」

ティアナ

「無論……苔色!!」

レッド

「何で?っていうか何で無論何だ？」

ティアナ

「これが大丈夫そうな色だから」

ワリオ

「多分、アイツ引くな・・・蒼色だったら・・・!!」

蒼星石

「兎に角、逃げる準備をしましょう・・・!!」

ルイージ

「あれがハズレの可能性が高いって!!」

ティアナ

「あんたら・・・もう引くよ?」

クリアか・・・? ハンター放出か・・・?

ティアナ

「ふりゃあ〜!!」 ジャラッ

シーン・・・。

ティアナ・ランスター クリア

ティアナ

「ふう、蒼色はハズレじゃなかった・・・!!」

ルイージ

「うわあ、滅茶苦茶緊張したよ……!!」

14番目は、翠星石……。

翠星石

「まさか翠星石まで回って来るとは、思いませんでした」

ローゼンメイデンの第3ドール、鎖の前に立つ……。

カービィ

「何色？てつとり早くね」

祈里

「何色なの、翠星石ちゃん？」

翠星石

「えっと……黒で行きます」

レッド

「ちよっ、おい！それって、ハンターの色じゃねえか!!」

ワリオ

「止めとけ止めとけ!!」

翠星石

「でも……これに決めたからもっ引くです!!」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

翠星石

「はあ〜！！」

ジャラッ

シーン・・・。

翠星石 クリア

翠星石

「あれでも良かったんですう・・・！！！」

スバル

「黒でも出ないなんて・・・」

15番目は、蒼星石・・・。

蒼星石

「大分人数が減って来ましたね・・・」

ローゼンメイデンの第4ドール、鎖の前に立つ……。

ワリオ

「何色？お前は」

マリオ

「俺、ここで待ちたくないんだけどな……」

蒼星石

「一寸待って下さいね……じゃあ紺色で行きます！」

レッド

「紫じゃなくて紺色が……もう紫は引かれてるけど」

祈里

「もう出るかも……！？逃げる準備を……！！！」

蒼星石

「行きます……！！！」

クリアか……？ハンター放出か……？

蒼星石

「せい〜！！！」

ジャラッ

シーン……。

蒼星石 クリア

蒼星石

「良かったです……後は皆さん頑張ってください……!!」

ワリオ

「まだハンター出ねんだ……!!」

16番目は、山吹祈里……。

祈里

「うわあ、もう私まで来ちゃったんだ……!!」

キュアパイン、山吹祈里が鎖の前に立つ……。

マリオ

「何色だ？」

祈里

「えっと……山吹色!!」

レッド

「自分の名字に因んでか・・・」

スバル

「そろそろ出そう・・・!!」

カービィ

「逃げる準備を・・・!!」

ルイージ

「ひゃっ・・・!!」

祈里

「えっと・・・引くよ・・・!!」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

祈里

「ひりゃあっ!!」 ジャラッ

ガコン!!!!!!!!!!

全員

「うわああああっ!!!!!!!!!!」

4体のハンター、放出・・・。

ゲーム、スタート……。

> i 3 6 8 8 9 — 4 2 6 0 <

全員は一目散に逃げる。

4体のハンターの標的は……。

祈里

「いや〜!!」

無論、山吹祈里だ……。

祈里はそのまま逃げ続ける。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能……。

祈里

「イヤ〜!!」 ポンッ

> i 3 6 8 9 0 — 4 2 6 0 <

祈里

「おかしいよ……!!あの色がハズレだったの……!?!」

キュアパイン、早くも散った……。

ブルルルル

せつな

「何々・・・？あつ、メールだ・・・！！」

アルル

「『オープニングゲーム地点付近にて山吹祈里確保』
祈里が確保されたんだ・・・」

レッド

「アイツ、結構残りそうだったんだけどな・・・」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

今回の逃走舞台は、『メイジエラタウン』。
明治時代の街である。更には有名な偉人が住んでいる。
ゲーム時間は80分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、逃げ切る者は、誰だ・・・？

スバル

「凄い・・・明治時代だ・・・!!」

蒼星石

「あつ、有名な偉人がいます・・・！」

でも話しかけるのって結構勇気いりますよね・・・」

今回の舞台は、明治時代・・・。

キャラ

「今の時間帯は深夜だし・・・ハンター見つけにくいよ・・・!!」

まだ、時間帯は、深夜である・・・。

マリオ

「少し腹減ったな・・・けど頑張らねえと・・・!!」

マリオ、少し空腹だが逃げ切る為に頑張る・・・。

オープニングゲーム？（後書き）

今回の逃走舞台は、『メイジエラタウン』。

明治時代の街である。更には有名な偉人が住んでいる。

ゲーム時間は80分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、逃げ切る者は、誰だ・・・？

ミッション1発動！（前書き）

明治時代での、逃走劇・・・。

ミッション1発動！

スバル

「ハンターに警戒しないと……！！すぐに見つかる！！」

スバル、周りを見ながら慎重に移動している……。

ワリオ

「俺様は長い間参加してなかったからな……今回は大丈夫なのか？」

第1弾から4回の間参加していなかったワリオ。だが、第6弾で久しぶりに参加した様だ……。

ワリオ

「このまま隠れて絶対に逃げ切ってやるぜ……！！」

エリオ

「うわあ、緊張するって……！！しかもハンター周囲にいっぱいいるし……！！！」

エリオ、ハンターに警戒しながら慎重に進む……。

アルル

「ミッションが出るまで隠れとこうと……無闇に動いたらハンターに見つかるから……」

彼女も、慎重に進む様だ……。

ルイージ

「クソッ、ハンターどこにいてもいるじゃないか……!!」

緑の人気者、ルイージ……。彼もハンターに警戒しながら動く……。

ルイージ

「慎重に慎重に……!!」

しかし、警戒している彼の近くに、ハンター……。

ハンター

「……!」

見つかった……。

ルイージ

「ここなら、見つからないだろう……」

しかし、ルイージは、まだ気づいていない……。

ルイージ

「ここでやり過ぎして……ってハンター!？」

ルイージは一目散に逃げる。

しかし気付くのが遅かった為、最早、逃走不可能……。

ルイージ

「ぎゃあ〜!!」 ポンッ

> i 3 6 8 9 7 — 4 2 6 0 <

ルイージ

「ええ〜・・・!!?絶対に逃げ切りたかったのに・・・!!」

前回の屈辱を、果たせなかった様だ・・・。

ブルルルル

マリオ

「何だよ、こんな時に・・・!!」 『ルイージ確保』

嘘だろ・・・!!?アイツが早く捕まるなんてよ・・・!!」

リンク

「ルイージ確保か・・・残るは20人・・・!!」

せつな

「意外だ・・・!!」

その頃、福沢諭吉は・・・。

福沢諭吉（役：スネーク）

「気分転換に散歩でもするか・・・」

福沢諭吉、気分転換に街を散歩する様だ・・・。

夏目漱石（役：ネス）

「もう夜が明けましたか・・・意外と早いもんですな」

こちらも、有名な夏目漱石、散歩をしている・・・。

森鷗外（役：アイク）

「ちょっと福沢諭吉の家に行かせて貰いますよ」

森鷗外、福沢諭吉の家に入る・・・。

森鷗外（役：アイク）

「・・・？誰もいないですね。？この不思議な物体は何ですか？」

森鷗外は謎の装置に触れる。

森鷗外（役：アイク）

「・・・？よく分かりません」

しかし、その謎の装置は、このミッションに影響を与える・・・！！

ブルルルル

アルル

「何・・・！？『福沢諭吉の家にハンターボックスが設置されている』」

福沢諭吉？ってハンターボックス・・・！？」

リンク

「『残り65分までにハンターボックスのハンドルを回して門を
かけないとハンターを追加する』これは急がねえと……!!」

アミティ

「『個数は、福沢諭吉の家に3個』何だ、簡単じゃないか……!
!」

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!

福沢諭吉の家に謎の装置が設置されている。

残り65分までにハンターボックスのハンドルを回して門を
かけないとハンターを追加する。個数は、福沢諭吉の家に3個。

蒼星石

「ハンター放出なんかさせません……!!」

ゆり

「ここは周りを見て行動しましょう……!!」

リンク

「これ絶対にやらなきゃ駄目だろ……!!」

ピット

「やる……!!3体ハンター放出するんでしょ?」

アルル

「ハンター放出を阻止しないと……!!」

かなりの人数が、参加する様だ……。しかし

翠星石

「誰かがいくでしょ……?」

ドンキー

「動いたら捕まるリスクが高まるからな……」

ワリオ

「誰かやってくれるだろ……!!」

レッド

「ここは……行かない方がいいかもな」

キャラ

「これ、もしかしたら実はこういうひっかけがありましたとか
そんなのがあるかもしれないから行かない……」

行く者がいれば、行かない人もいる……。

参加は、逃走者達の自由だ……。

残る逃走者は、翠星石、蒼星石、響、奏、ゆり、せつな、マリオ、
ドンキー、ワリオ、

リンク、ピット、カービィ、オリマー、レッド、スバル、ティアナ、
エリオ、キャラ、

アルル、アミティの20人。

果たして、ハンター放出を阻止出来るのか!?

ミッション1発動！（後書き）

残る逃走者は、翠星石、蒼星石、響、奏、ゆり、せつな、マリオ、ドンキー、ワリオ、リンク、ピット、カービィ、オリマー、レッド、スバル、ティアナ、エリオ、キャラ、アルル、アミティの20人。

果たして、ハンター放出を阻止出来るのか！？

ハンター放出を阻止せよ(前書き)

残るは、20人・・・。

ハンター放出を阻止せよ

リンク

「早めに行かねえと……!!」

アミティ

「でもハンターがいるから、油断は出来ないね……!!」

動けば、ハンターに見つかるリスクが、高まる……!!

エリオ

「アルルさんに電話しよう……!!」

エリオは携帯を用意する。

ブルルルル

アルル

「……?あれっ、エリオ?」

エリオ

「このミッション、行くの?」

アルル

「勿論だっ……ハンター放出なんて嫌だもん……!!」

エリオ

「そうだよね・・・今僕もハンターボックスに向かっている」

アルル

「あっ、助かった・・・！！一緒に手伝おう」

エリオ

「当たり前じゃないか・・・！！」

エリオ、アルルの手伝いをする様だ・・・。

ワリオ

「誰かが行くだろ・・・俺様は行かねえ」

こちらは人任せの金の亡者、ワリオだ・・・。

ワリオ

「・・・？あれは響か・・・？」

ワリオ、響が遠くで歩いている所を発見する・・・。

ワリオ

「アイツの事だから絶対にミッション参加してるよな・・・っておい！！？」

アイツの後ろにハンターが迫って来てるって・・・！！！！」

響

「福沢諭吉の家まで多分遠いかも・・・」

こちらは逃走中の大本命、北条響だ……。

しかし、彼女に迫り来る、ハンター……。

響

「ちょっと移動しよ……!! ってハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった……。

響

「うわあ、ヤバイって〜!!」

響は一目散に逃げる。

上手く、振り切れるのか……？

響

「うわあ、ハンター早すぎるって……!!」

響は建物の角を利用しながら逃げる。

響

「これでハンターとの距離は……」

しかし、逃げた先に、別のハンター……。

ハンター

「！」

更に、見つかった……。

響

「ええ〜!？」

最早、逃走不可能……。

響

「ひゃあ〜!!」 ポンッ

> i 3 6 9 1 4 — 4 2 6 0 <

響

「ええ……!?!?信じられない……!!何であんなにハンター速いの……!?!？」

振り切る事は、容易では、無い……。

プルルルル

ドンキー

「何だよ、また……!?!? 『森鷗外の家付近にて北条響確保』

うおっ、ありえねえ……!!響捕まった……!!！」

ティアナ

「あの人、結構残る方だと思ってたんだけど……」

カービィ

「響捕まったんだ……」

ワリオ

「結局捕まってしまったか……多分挟み撃ちにされたとかそんなんじゃないのか……?」

スバル

「これって……福沢諭吉の家じゃない?」

スバル、逸早く到着……。

スバル

「よつしやよつしや……!!ハンターボックスある……!!でも1個しかない?」

スバルはハンターボックスを発見するが、何故か一つしかない。

スバル

「……兎に角、このハンターボックスのハンドルを回そう……!!」

スバルはハンターボックスのハンドルを回す。

ミッションクリア

スバル

「やった……!!でも、何で1個しかないんだろう……?」

その時、外から住民の声が聞こえて来た……。

住民A

「何やら福沢諭吉が謎の装置を持って夏目漱石と森鷗外の家に行っただぞ」

住民B

「ホントだ。一体何に使う奴なんだ？」

スバル

「福沢諭吉が謎の装置を持って行った……。あつ！！」

スバルは携帯を取り出す。

ブルルルル

エリオ

「何々……？『スバルからのメール』……？」

アミティ

「『皆さん、先ほど福沢諭吉がハンターボックスを持って夏目漱石と森鷗外の家に行きました！』」

えっ……！？何ソレ、聞いてないよ……！！」

リンク

「『なので、残るは夏目漱石と森鷗外の家2つにあります！急いで下さい！！』」

これは厄介事だ……！！」

スバルのメールを聞き、動き始める逃走者達が増えた。

牢獄DEトーク

牢獄には、祈里、ルイージ、響の3人がいた。

ルイージ

「結局捕まったのは僕等3人が・・・」

響

「しかも私はハンターに挟み撃ちされたとか・・・屈辱だよ・・・
!!!」

祈里

「でも、ここからどうしよう・・・」

ルイージ

「うーん、皆の応援をする・・・?」

果たして、ハンター放出を、阻止出来るのか!?

ハンター放出を阻止せよ（後書き）

果たして、ハンター放出を、阻止出来るのか！？

ハンター放出の危険(前書き)

残るは、2つ・・・。

ハンター放出の危険

エリオ

「まだかな・・・？ハンター出て来るなよ・・・！！」

ハンターは、神出鬼没・・・。何時、何処から現れるのか、分からない・・・。

アミテイ

「結構賞金が増えて来てる・・・！！このまま自首しようかな・・・？」

アミテイ、自首狙いだ・・・。

ティアナ

「誰かやって来れるでしょ・・・？だから行かない・・・！！」

こちらも人任せの、ティアナ・ランスター・・・。

リンク

「クソツタレ・・・！！どこに行ってもいるじゃねえか、ハンター・・・！！」

リンク、ハンターに見つからない様慎重に進む・・・。

アルル

「あれっ？ネス？」

夏目漱石（役：ネス）

「ネス・・・？はて、誰の事ですか？私は夏目漱石です」

アルル

「えっ？えっ！？こんなに小さいのに！？あの有名な！？嘘！？ネスだよ！？」

夏目漱石（役：ネス）

「それは誰かの空似では無いでしょうか？」

アルル

「は、はあ・・・確かに見てみるとネスだけど・・・あつ、えつと、夏目漱石の家上がつてもいい？」

夏目漱石（役：ネス）

「良いですよ。ですが、あまり部屋を漁らない様に」

アルル

「うん・・・」

アルルは夏目漱石の家に上がった。

アルル

「あつ、これだね・・・！！」

アルルはハンターボックスのハンドルを回す。

ミッションクリア

アルル

「やった・・・！！後はエリオ、頑張つて・・・！！」

2つ目、阻止出来た様だ・・・。

ワリオ

「俺様つて、ハンターに見つけられたら即終わりだもんな・・・」

こちらも人任せの、ワリオ・・・。

ワリオ

「早く阻止してくれよ・・・！！」

ティアナ

「どうやらメールによるとアルルの活躍によって2つ目阻止出来た様ね・・・」

前回、かなり序盤で捕まり、通報部隊として活躍した、ティアナ・ランスター・・・。

そんな彼女の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「・・・」

ティアナ

「動こ・・・ハンターに見つかったらヤバイし・・・!!」

しかし、彼女は、ハンターが近くにいる事を、知らない・・・。

ハンター

「・・・!」

見つかった・・・。

ティアナ

「よし・・・ハンターは・・・って後ろにいるじゃん!?」

ティアナは一目散に逃げる。

しかし気づくのが遅かった為、最早、逃走不可能・・・。

ティアナ

「ひゃ〜!!」 ポンッ

> i 3 6 9 8 4 — 4 2 6 0 <

ティアナ

「嘘・・・!!? 最悪・・・!!」

人間不信に陥っている少女、ここで脱落・・・。

ブルルルル

エリオ

「えっ・・・!!? 何!? あっ、『ティアナ・ランスター確保』・・・

!!」

リンク

「結構残りそうな奴がどんどん捕まって行く……!!」

アミティ

「どうしよう……!?残り18人だ……!!」

キャロ

「ここは動こうかな……?でも、動いたらハンターに見つかるし……!!」

エリア内には、4体のハンター……。動けば、捕まるリスクが、高まる……!!

キャロ

「早く誰か阻止してよ……!!」

エリオ

「ハンターいるって……!!鬱陶しいな……!!」

エリオは慎重に進む……。

エリオ

「回り道しよう……」

エリオは遠回りをする事に決意する。

しかし、向かった先にも、ハンター……。

ハンター

「……」

エリオ

「あっ、ハンターいる……！！しかも挟み撃ちっばいし……！！」

エリオはハンターとハンターの間から逃げる。

ハンター

「……」

上手く、見つからなかった様だ……。

エリオ

「もう……何でこんな時に……！！」

エリオ、ミッション成功を決意したが、2体のハンターのせいで動けない様だ……。

カービィ

「遅いな……もう自首しよう！！」

カービィ、自首を決意……。

しかし、そんな彼の近くに、ハンター……。

ハンター

「!」

カービィ

「え」と、電話ボックス電話ボックス……ってハンターいるじゃ
くん!？」

最早、逃走不可能……。

カービィ

「ぎえ〜!」 ポンツ

> i 3 6 9 8 5 — 4 2 6 0 <

カービィ

「うわあ〜、後もう一寸だったのに……!」

豪華なダイナーの夢が、ここに散る……。

ブルルルル

ドンキー

「えっ……!?!?何だよ……!?!?『カービィ確保』カービィまで・
……!」

スバル

「人数がどんどん減って行く……!」

せつな

「カービー確保……！！もう17人……！！？」

エリオ

「もう駄目だ……諦めよう」

エリオ、ミッションを諦めた……。

その彼の近くに、ハンター……。

エリオ

「つてか、移動しなきゃヤバイんじゃないか……！？つてハンター……！！」

ハンター

「！」

見つかった……。

エリオ

「2体ハンターから抜け出せたのに……何でこうなるの……！！？」

エリオは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能……。

エリオ

「わあ〜!!」 ポンツ

> i 3 6 9 8 6 | 4 2 6 0 <

エリオ

「これは駄目だって・・・!!アルル、すまない〜」

アルルとの約束が、果たせなかった様だ・・・。

ブルルルル

スバル

「えっ・・・!!? 『エリオ・モンディアル確保』 うわっ、ついにエリオが・・・!!!」

ドンキー

「これ、行かなきゃヤバイんじゃないのか・・・!!?」

マリオ

「マジか、どんどん人数が減って行く・・・!!!」

アルル

「ええ〜!?!エリオ捕まっただ・・・!!!」

蒼星石

「ここが森鷗外の家ですね・・・失礼します〜」

蒼星石は森鷗外の家に入る。

蒼星石

「あつたあつた・・・!!あれっ、ハンドルが2つある・・・?」
ただし、3つの内1つは、2つのハンドルが付いており、
2人同時に回さなければならない・・・!!

蒼星石

「誰か来て下さい・・・!!」

残る逃走者は、翠星石、蒼星石、奏、ゆり、せつな、マリオ、ドン
キー、ワリオ、リンク、
ピット、オリマー、レッド、スバル、キャロ、アルル、アミティの
16人。

果たして、残り1分で全てのハンターボックスを阻止出来るのか!
?

ハンター放出の危険（後書き）

残る逃走者は、翠星石、蒼星石、奏、ゆり、せつな、マリオ、ドンキー、ワリオ、リンク、ピット、オリマー、レッド、スバル、キャロ、アルル、アミテイの16人。

果たして、残り1分で全てのハンターボックスを阻止出来るのか！
？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2399z/>

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中『メイジエラタウン編』

2011年12月11日14時49分発行